

2009年 世界銀行グループ・国際通貨基金総務会
年次総会開会の辞

国際通貨基金 専務理事
ドミニク・ストロスカーン

イスタンブール

2009年10月6日

この度は国際通貨基金（IMF）を代表して、総務会委員長、総務並びに来賓の皆様をこうしてお迎えできましたことを光栄に存じます。また豊かな歴史と文化を誇り、東西の架け橋となるという、グローバル化した世界において平和と繁栄の礎を築く上で正しい選択をされたイスタンブールという素晴らしい街で皆様とお会いできたことは何にも変えがたい喜びです。我々の姉妹機関で卓越した指導力を発揮しております友人ボブ・ゼーリック総裁に感謝いたします。トルコ共和国の皆様、我々を暖かく迎えてくださり、またこのように素晴らしい総会を準備して下さり感謝いたします。そしてウィン・ヴァン・ギャウ委員長を始め総務の皆様には、これまで1年間絶えずご支援くださいましたこと、心より御礼申し上げます。

本日はまず皆様にこれまでのことを振り返っていただきたいと思います。1年前に皆様とお会いした時は、リーマン・ブラザーズが崩壊した直後でした。不透明性が転じて完全なパニック状況になり世界中で経済活動が急減速を始めました。人々は世界大恐慌の再来かと最悪の状況を懸念しました。しかしこうして皆様とお話している今日我々がいる世界はそれと全く異なっています。不安は希望へと変わりました。勝利を宣言するには時期尚早ではありますが、我々は危機の瀬戸際から脱出し少なくとも回復の道に乗ったと言えるでしょう。

この1年は大きな変化の1年でした。なかでも最も大きな変化は、危機を前にして世界各国がひとつになり、世界共通の利益を念頭におき共通の解決手段で共通の問題に挑んだということです。

そして今我々は岐路に立っているといえます。世界の国々が一致団結して世界共通の問題の解決を図るならば、争いと低迷という負のサイクルを回避し、平和と繁栄という望ましい正の循環を実現できることは歴史を見れば明らかです。

我々は危機後の世界を構築するためのこの好機を逃してはなりません。しかし、今後我々を待ち受ける課題に取り組むには、国レベル、国際レベル、そしてIMFも、適応し変化しなければなりません。

そして本日私が皆様とお話したいのはこの変化についてなのです。

まず世界経済から見ていきましょう。我々は危機を脱したと思われまます。金融状況は大幅に改善し、成長のエンジンは再び動き出しているようです。我々の最新の見通しでは、世界経済は2009年に1%縮小した後2010年には3%程度の成長を達成すると予測しています。1年前との違いは明白です。

しかし今後を考えてみましょう。危機後の世界はこれまでと全く異なるものになるでしょうし、また全く違うものでなければなりません。我々はその現実に対応し、持続可能で裾野の広い成長を実現する政策を採用しなければなりません。

まず第一に、危機は終結したわけではありません。回復の歩調は緩慢と思われ、また民間需要も依然として持続可能なレベルには達していません。我々は今後もしばらくはレバレッジ解消の問題を抱えることになるでしょう。一方需要サイドを見てみると、特に家計のバランスシートが引き続き弱い国で、消費の動向は依然不透明です。

失業率の上昇が大きな影を落とすでしょう。成長が回復しても雇用が回復するには時間がかかります。実際失業率は2010年を通して多くの国で上昇を続けると思われまます。

特に、最大で9,000万もの人々が極度の貧困に突き落とされたといわれている低所得国が厳しい状況にあります。これらの国のソーシャル・セーフティ・ネットが脆弱であることから、高い失業率や購買力の低下だけではなく生と死の問題に我々は直面していることとなります。我々が行動を起こさなければ、社会不安、不安定な政治状況が生じ、さらには戦争が勃発する可能性もあります。

つまり世界経済は依然として非常に不安定な状態にあるのです。政策支援の時期尚早な解消は回復を脅かす可能性があります。確かに政策当局者は確実な出口戦略を作成しなければなりません。しかし今はその実施には早すぎるのです。

一般的に楽観主義にムードは傾いていますが、金融部門の問題の解決に向けた取り組みは遅らせてはなりません。銀行資本の増強とバランスシートの回復のため

には、損失は完全に認識されなければなりません。これが成されない限り、回復は引き続き危険にさらされていると言えるでしょう。

さらに我々は、規制の適用範囲を拡大し、資本と流動性のバッファーを強化し、金融システム上重要な金融機関に今まで以上に注意を払うなど、より安全で安定した金融システムを構築する必要があります。

危機の後については、我々は世界の成長のバランスを調整しなおす必要があります。これまで世界経済を支えてきたのは米国の消費者ですが、米国の家計の貯蓄率は急激に上昇しており、今後しばらくは高い状態にあると思われれます。このような状況を鑑みると、世界の経済成長を押し上げる責任は、輸出依存型の経済成長を遂げてきた国など米国以外の国々にかかってくることとなります。しかし、この転換は容易ではないでしょう。

経済が回復し大惨事を回避できたのは決して偶然ではありません。これは世界のガバナンスでこの1年で見られた大きな変化の結果です。かつてないほど多くの国が参加した前例のない規模の経済政策協力が実現しました。実際、我々の子供や孫がこの危機を振り返るとき、彼らの目を引くのはこの協力体制でしょう。これは我々の誇るべき遺産となるでしょう。

この協力体制は金融政策で見られました。各国の中央銀行は、時には非公式にそして時にはよりはっきりと協調利下げやスワップ・ラインなどで連携しました。また財政政策でも見られました。必要な財政余地を有した国々がIMFが提言したように、GDP 2%相当の世界規模の財政刺激策を実施しました。我々はこの刺激策による成長の3分の1は、まさにこの協調的措置に因るものだと思っています。そしてその後、我々は金融部門の問題解決にあたり共通の対応を行う兆しを目撃しました。

現代のグローバル化した世界において、世界経済政策はもはやほんの一握りの国のグループの関心事であるべきではありません。この新たな現実を反映した過去1年の大きな変化のひとつが、活発な経済活動を見せる新興市場国を含めたグループであるG20の浮上です。G20のリーダーシップにより世界中で大規模な政策協調を実施することができたのです。そして先日ピッツバーグにおいてG20各国首脳は、各国の政策決定は常に世界の共通の利益を勘案したものでなければならないと強調しました。

我々はこの機運を維持しなければなりません。G20はG7以上に世界を代表しているといえますがそれでも多くの国、特にアフリカ諸国が参加していません。

IMFには186カ国が加盟していますがこの中には、依然として貧困状態にあり経済的に取り残されている何十億という人々が生活する低所得国も含まれています。彼らの声にも耳を傾けなければなりません。彼らも世界経済における重要な役目を付与されるべなのです。我々は世界全ての国の協力が必要なのです。

IMFは他には見られないユニークな権限を委託されており、国際間の協力を仲介する理想的な立場にあります。我々は、我々の設立者から引き継いだ、世界経済の安定、そしてそれによる平和と繁栄を目指すとした責務を全うするために邁進しながらも、過去の経験を活かし過去の過ちから学ぶことができました。

では、過去1年で我々はどのような変化を遂げたのでしょうか。いくつか代表的なものについてお話いたしましょう。

- 我々は緊急融資を大幅に拡大、そのコミットメントはアジア危機の際の2倍以上の規模に達しています。また全ての全加盟国の融資利用限度を倍増しました。
- 我々は2,830億ドル相当の特別引出権（SDR）を配分し、世界経済に追加的流動性を注入しました。
- 我々は譲許的融資を当初2年間での80億ドルを含め2014年までに最大170億ドルに拡大します。これにより譲許的融資は危機前の3倍以上の規模となり、更に低所得国に対しては2011年末までゼロ金利で融資を行います。
- 我々は新たにフレキシブル・クレジットライン（FCL）を設立しました。これは優れた政策の実施において確固たる実績を有する国を対象としたもので、新たにコンディショナリティーが課されることなく、迅速に相当額の融資を前払いで提供します。
- 他のプログラムに関しては、我々は、各国のマクロ経済の安定及び成長に不可欠な中核的な政策措置にのみ焦点を絞り、コンディショナリティーを合理化しました。
- 譲許的・非譲許的双方の融資プログラムにおいて、我々は従来より大きな財政赤字でも容認しています。
- 今日の我々のプログラムには、最も貧しく脆弱な人々の保護を謳う特別条項が含まれています。

我々は進歩を遂げましたが、我々の旅はまだ終わったわけではありません。日曜日の会合でIMFCは、4つの重要な分野において改革を行うよう我々に要請しました。その4つの分野とは、我々の責務、融資機関としての役割、マルチラテラル・サーベイランス（多国間政策監視）、そしてガバナンスとなっています。ではそれぞれについて簡単にお話しましょう。これをイスタンブールの決議と呼ぶことにしましょう。

第一に、我々は世界経済の安定に影響するマクロ経済並びに金融部門政策全体を網羅するようIMFの責務を見直す必要があります。この度の危機は、経常収支や通貨の動きといったIMFが伝統的に注視していた事項とはほとんど関連性がありませんでした。世界のあらゆるところに大規模な資本がすばやく流れていく時代においては、より広範な責務が求められているのです。

第二に、我々はフレキシブル・クレジットラインの成功を基にし、より多くの国に保険を提供しなければなりません。そのような制度がないことにより多くの新興市場国が自己保険という手段を選択し、外貨準備金を積み増し巨大なバッファを構築しました。これが世界の不均衡を助長し安定性を損なうと共に、今後世界がより均衡の取れた成長を遂げるために必要な、輸出志向型から内需志向型への政策の転換を妨げているのです。IMFCは我々に対し、我々の融資制度の強化がこの問題の解決に効果があるかについて評価を行うよう求めました。IMFの設立者は、IMFがこの国際的な最後の貸し手という役割を果たすことを想定していましたが、予防手段としての準備金への需要と比較すると、IMFの現在の財源は限られたものだと言えましょう。

第三に、IMFCはG20が提唱したIMFがG20の政策の相互評価を支援するという案を承認しました。これは我々にとり新たなマルチラテラル・サーベイランスを意味するものですが、マクロ経済・金融の相関関係及び、国境を越える波及効果に焦点を当てた我々のサーベイランスのアジェンダと整合的だといえます。新たに金融安定理事会（FSB）と共同で行う早期警戒演習も、国境を越えた側面を含めたテール・リスクや脆弱性に対する我々の理解を高めるのに有益でしょう。

第四に、IMFCはG20が合意したガバナンスの面での大きな変化についても承認しました。これにより活発な経済活動をみせる新興市場並びに途上国へIMFのクォータのシェアを移行させること、つまり過大評価されている国々から過小評価されている国々へ少なくとも5%移行させることとなります。これは2011年の1月までに実施されることになっています。これにより我々の正当性が向上す

ると共に、我々が今後更に実効的となるための大きな一歩だといえます。我々はこうして将来のことを話していますが、これまでに承認された改革の実施が遅れています。2008年に承認されたクォータとボイス（投票権）の改革については、111カ国中わずか36カ国が批准しているに止まっています。私はこの点について各国が早急に対応するよう求めます。

最後に、去年は世界経済、世界のガバナンス、そしてIMFにおいて大きな変化が見られた年でした。これらの変化は各国間の協調の精神を表したものです。歴史の教訓は非常に明快です。内向き志向により世界大恐慌は悪化しました。今回は各国が連携したことにより、危機の深刻化を防ぐことができました。

この機運は継続されなければなりません。我々の186の加盟国を代表している皆様が、自分たちは変わり新たな危機後の世界に適応しなければならないと理解されていることでしょう。そして我々IMFも同様だと理解しています。覚えておいてください、IMFは皆様の組織です。我々は皆様のニーズに応えるためにここにいるのです。そして、我々は最大限に効力を発揮できる組織でありたいと願っています。

総務の皆様：私はこの組織を導く立場にありますことを名誉に思っております。IMFは昨年多くのことを成し遂げました。スタッフそして理事会の皆さんの高いプロとしての意識とたゆまぬ献身、そしてその勤勉さに心より感謝いたします。

最後になりますが、我々が共に始めた旅は平和と安定のためのものです。これは地球に共に生活する約70億の人々の福祉と安全の問題です。ジョン・メイナード・ケインズがIMF設立の際に述べたように、望むべくは「仲間意識が単なる言葉以上のものになる」ことです。我々は危機後の世界を再構築するという歴史的な機会を手に入れました。そしてこれは、このケインズの言葉を現実にするチャンスなのです。

ご清聴ありがとうございました。